

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4292200013		
法人名	社会福祉法人 五島会		
事業所名	グループホーム富江		
所在地	長崎県五島市富江町狩立1091-3		
自己評価作成日	令和3年6月13日	評価結果市町村受理日	令和3年8月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和3年7月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人では「家庭的な雰囲気の中で、その人らしく尊厳のある生活を目指し、目配り・気配り・心配りで心に寄り添うケアを提供します」の理念の下、ご利用者様、家族様の希望を取り入れながら安心して安全な生活が送れるよう支援しています。
料理の食材やお菓子など、郷里ならではの物に取り組み懐かしさやあたたかさを感じ、彩りのある生活となるよう工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人では理念を基に、「令和3年度は知識も技術もやる気も継続も、コロナに負けない」のスローガンを掲げている。施設長は、主任者会議や巡回時、職員の思いや悩みを聴取し適切なアドバイスを行う等、「コミュニケーションが取りやすい環境整備に努めている。各分野研修が充実し、施設長の思いである「人を育てる」に繋がっている。学ぶことにより職員の意識向上に繋がり、業務改善や書類の見直しなど職員主体で行っている。職員は、利用者に対して家族のように接し、日々あらゆる場面で何気ない会話より思いを汲み取っている。プランター菜園、山菜の皮むきやおはぎ作り、カラオケや将棋等、利用者が主役になれる場面があり、利用者の生きる意欲となっている。不穏時にはドライブや散歩に誘う等、職員のフットワークとチームワークの良さは強みである。利用者職員との笑顔と元気が印象的な事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼時に理念を唱和し、利用者主体の個人の尊厳を大切にケアに繋げている。	管理者は「介護の基本姿勢は理念に通じる」と日々職員に伝えている。毎朝理念を唱和し新人職員に、日々のケアに於いても指導を行っている。職員は、利用者を家族と同様に思い、笑顔で寄り添うことで利用者の笑顔を引き出し、笑顔のサイクルを生み出しながら理念の実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し、回覧板や総会出席等で地域と交流している。 近隣の空き缶拾いを利用者と共に取り組んでいる。	新型コロナ禍中の地域行事は中止となるが、総会にはケアマネジャーが出席しており、認知症他の介護相談を受ける等、地域住民と気軽に情報交換を行っている。産業祭参加や近隣の空き缶拾い、密を避け、馴染みの商店で買物等、職員は、地域との交流を絶やささないよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や町内会の集まりに参加し、認知症の理解等の普及に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年6回実施し、事業計画、実績、利用者の生活様子を報告し意見や助言を頂きサービス向上に活かしている。	運営推進会議6回の内、2回は規程メンバー参加で開催しており、4回は紙面会議による資料郵送となり、メンバーから確認書が届いている。事業計画や実績、新型コロナ関連、日々の生活を書面や写真で紹介している。行政からの情報提供や家族の質問に答える等サービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等で市職員担当者から情報や意見を頂き、協力関係を築いている。	今年度は新型コロナの影響もあり、実践に役立つ内部研修を充実している。行政から本部を介する他、直接事業所宛てに、運営に関して情報提供や助言、指導がある。事業所の状況報告や困難事例など担当課と情報共有し、必要時には来訪がある等協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人並びに事業所で研修・委員会会議を開催し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化のための指針を整備し、2ヶ月毎に委員会を開催している。毎月職員会議にて、事例検討を行っており、言葉遣い等その場で注意し合える職場作りに取り組んでいる。日中は玄関施錠はなく、不穏の利用者には近隣ドライブに誘ったり、散歩する等拘束のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を設置し、2ヶ月に1回会議を開催。 関連法を学び、ケアの振り返りを行い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度利用対象者を事例としてスタッフ会議等の場で、制度の理解と活用について学びの場を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時や改定時に本人、家族の意見を尊重しながら十分な説明を行い理解納得の上、署名押印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族と面談、電話、郵便等で意見を伺い運営し、反映している。	利用者、家族等の意見を聞く体制を整備し説明している。年1回家族会や家族訪問時に利用者の様子を伝えている。今年度は新型コロナ禍で、家族会中止のため、隔月の便りや毎月写真と共に手紙の内容を充実している。更に窓越しの面会では、日除け TENT を貼るなど家族の意見をサービス向上に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議や日々の申し送り時で職員が意見提案でき、法人開催の主任者会議を通じて代表者に連携している。	管理者はスタッフ会議に限らず、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。施設長は、主任会議で情報共有を行っている他、年3回の自己評価と面談があり、職員の意見を直接聞く機会を設けている。事業所は、職員の希望休やシフト、異動など配慮している。業務内容や記録の書き方など、職員の気づきを業務改善に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って資格取得、目標を決め働きやすい職場環境作りに努めている。本人の努力や実績が認められるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として「人を育てる・人が育つ事業所を目指す」を取り組んでおり多岐にわたる研修を開催し現場で役立つ知識技術を学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加盟しており、研修参加等で交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴等基本情報を念頭におき、利用者が何を求め何が大切か、よく話を聞くことを重視し共に生活する一員として信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が話しやすい雰囲気を作り、困り事や要望を受け止めなるべく要望に応えられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の身体状況を踏まえて、本人家族が希望する支援を聞き必要としている支援を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も共同生活の一員として接し、一緒に家事を取り組む等、家族のような関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況を家族に相談する事で新たな対応方法に繋がる事がある。 家族しか知らない事、家族しか出来ない事を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族等から馴染みの場所を把握し、大切な関係が途切れない様、外出支援を行っている。	今年度は新型コロナ感染予防策を講じながら、馴染みの土地や店にドライブしている。家族とも窓越しの面会や手紙、電話を活用しながら、関係継続できるよう支援している。利用開始時に、本人や家族から生活歴や馴染みの情報を収集しており、新たに得た情報は口頭と個別記録で共有している。基本情報への加筆はこれからである。	職員が収集し記録している利用者の特徴や特技などの情報を基本情報に於いて、整備することにより、更に職員の情報共有が高まりチーム力を発揮することに期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の関係を把握している。リビングや食堂の席次を工夫し、コミュニケーションをとりながら、利用者同士の関わりを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や退居後も要望があった時は相談に応じ、これまでの関係性を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の言葉、表情、行動等から意向を確認している。 本人の意向の確認が困難な場合、家族に相談し支援検討している。	職員は、利用者一人ひとりと会話しながら、一日の過ごし方や思いについて、意向を把握し支援に反映している。会話が困難な場合、表情や仕草、家族の協力などから、本人本位の支援を検討している。職員は、介護記録に利用者の言葉を記録することで、利用者の視点に立った具体的な支援となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係者等から入居前に生活歴や馴染みの暮らし方の情報を得て支援に繋げている。 入居後も情報を提供頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身状態は介護記録や健康チェック表で職員間で情報共有している。 活動の様子から有する力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に本人家族関係者等から情報を得て毎月カンファレンス、モニタリングを行っている。	入居時に、前情報をもとに暫定プランを作成しており、おおむね2週間を目途に、本介護計画を作成している。毎月全職員でモニタリング、カンファレンスを経て、今年度、健康管理表に運動項目を加えた書類改善を行っている。実践状況は書類にて確認でき、変化があれば見直し、本人・家族にて承を得て実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア内容は介護記録と健康チェック表に記入し情報を共有している。 医療関連情報は特別に申し送りノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況は健康状態以外に四季折々の環境や天候等の影響で生まれる新たなニーズについて、その時々に応じた支援を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者、家族からの情報や市広報誌、職員及びその地縁者等の情報等の情報から昔懐かしいお菓子作りなど利用者と一緒に楽しむ機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月主治医の往診を受け健康状態を診察頂いている。 家族に診察内容を伝え、情報共有と家族の意向を確認している。	受診は、本人・家族の希望を優先している。新型コロナ禍のため感染を避け、通常とは異なる受診支援を行っており、家族にも了解を得ている。主治医の指示により、ケースバイケースの対処方法を職員に周知している。訪問看護師から助言を得たり、夜間緊急時も24時間の医療連携を整え、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設老健から週に一度、看護師の訪問があり、状態や気づきを相談し、適切な受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護サマリー、退院時に看護サマリーを提出し合い、治療や介護の情報交換を行っている。 又、協力病院とは24時間相談できる体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応が必要となった場合は、本人及び家族を含め、主治医並びに関係機関と方向性や対応などを検討していく。	重度化や看取りに関して、指針をもとに説明を行い、入居時は本人・家族の心情に配慮して形式的な説明に留まり、家族に同意書を得ている。持病の悪化や退院後は、家族の希望により医療機関や法人他施設への退去となり、看取りの事例はない。本人、家族の望む終末期を迎えられるよう、主治医を交え協議し支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えてマニュアルを作成し、スタッフ会議等で勉強会などを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	消防総合訓練を年2回、消防署立ち合いで実施し、台風等を想定した避難訓練を行っている。	年2回の消防署立会いや毎月昼夜間想定自主災害訓練を、利用者参加で行っている。地域の訓練参加は都合で至らなかったものの、緊急通報システムに近隣住民も加え、協力を仰いでいる。台風接近に備え、法人施設へ避難の経緯があり、検証を行っている。ただし、持出個人情報や備蓄一覧表整備はこれからである。	今後も、あらゆる災害を予測し、検証で得た反省点を次の訓練に活かし備えることが望まれる。避難の際、協力者とのスムーズな情報共有ができるよう、緊急用の個人情報整備等、検討、取組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業者内で研修を行いプライバシー保護について学んでいる。 利用者入居時に個人情報の取り扱いについて説明し同意を得ている。	職員は、利用者との関りの中で、馴れ合いにならないよう、人格を尊重した言葉遣いや接し方に配慮している。そのため、接遇や身だしなみの研修受講、不適切ケアのチェックリストなど取り組んでいる。書類は事務所で管理し、職員の守秘義務も周知徹底を図っている。利用者の個人情報に関する書面を整備し、家族の同意を確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が話しやすい雰囲気を作り、自由発言、選択、表情や動作から思いを汲み取り、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活時間の決まりはあるが、本人のペースで生活できるよう柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択は利用者の意見を尊重している。 希望に沿って化粧や髪結いの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に調理や盛り付け、食器拭き等を楽しみながら取り組んでいる。 旬の野菜に触れる所から会話も広がっている。	ユニット毎に地元食材や家族の差入れ、事業所で収穫した野菜を用い、利用者の好みの献立を作成している。食が進むよう味付けを変えたり、嚥下に合わせた盛付など、細かな配慮が窺える。つわ等食材の下処理を会話や季節を楽しみながら行っている。行事食や誕生会は、特別メニューもあり、食を通した活力支援に繋がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の咀嚼力、嚥下力、摂取量を考慮して提供している。併設の老健の管理栄養士の指導を受け学びの機会を持っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを促し見守り介助している。 就寝時には義歯洗浄を介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄パターンを把握する事で、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。	職員は、利用者の座位を確保し可能な限りトイレで排泄できるよう支援しており、利用者の習慣や不安に配慮しながら、トイレに誘導している。排泄チェック表を活用し、支援内容を検討している。パッド類の使用状況から、日中はパットを使用せず、見守り中心になった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜多めの食事や、十分な水分摂取ができるよう支援している。 自然な排便ができるよう少しでも、体を動かす機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者のその日の気分や希望を聞いて入浴頂いている。 入浴気分でない時は時間を変えて伺うなど入浴を楽しめるよう支援している。	平日週3回を目安に入浴日を設け、体調や気分に合わせて声を掛けている。職員は、利用者が入浴することを不安や負担に感じないよう、声掛けや接し方に配慮している。必要に応じ、補助具を用いスムーズで安全な入浴支援を行っている。季節の湯を実施したり、入浴中に寛ぎながら会話するなど、入浴を楽しむ工夫に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。 利用者は余暇時間に自由に休息できるよう支援し、意思表示できない方は、表情を見て声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医や薬局と連携し、薬の理解と状態変化の確認に努めている。 誤薬防止マニュアルを作り誤薬防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々のできる事や楽しみに注目して職員等と一緒に取り組めるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の気分や希望に応じて季節を希望を肌で感じ心身の活性につながるよう散歩、買い物、ドライブ等出掛けている。	今年度は新型コロナ禍にあり、家族との外出は困難であったが、新型コロナ感染予防策を講じ、外出先を検討しながら、散歩やドライブなど外出支援を行っている。四季折々の景色を楽しんだり、敷地内でプランター菜園など外気浴など取り組んでいる。また、個別に馴染みの地域や店へ外出支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所預かりが必要なときに使用できるようにしている。 買い物等の支払いは出来る限り自分で出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族の希望に応じて日常的に電話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、旬の野菜に触れる機会を持ち季節感をとりいれている。 室温の調整や換気、太陽光の調整など心地良い空間づくりをしている。	事業所は、プランター菜園や室内飾り付け等、利用者が季節の移ろいを五感を通して感じることができる。リビングで、利用者同士できることを手伝いながらおしゃべりを楽しむ風景は家庭的である。サンシェードで日差しに配慮し、職員が換気や室温管理、定期的な床ワックス清掃に加え、毎日清掃を行い快適な環境を整備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性を把握し、それぞれが居心地よく過ごせるよう配慮している。 一人であったり仲良い方と一緒にいたり好きな場所で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた日用品が居室に持ち込まれ居心地良く過ごせるよう工夫している。	収納家具やテレビ、ラジオ等、利用者が使い慣れた物を設置している。家族写真や傘や鏡、化粧ケース、髭剃り等必需品は本人の使い勝手がいいように置いている。普段はリビングで過ごしているが、居室でゆっくり寛ぐ利用者もいる。布団はリースで週毎のシーツ交換がある。手摺の消毒や職員による清掃で清潔な居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて居室やトイレ等に目印となる物をつけ、自立した生活が送れるよう支援している。		